

九州地方整備局「令和7年度事業評価監視委員会（第2回）」開く

「国道3号黒崎バイパス」等再評価6件の継続を了承



道路・港湾事業などの再評価案件を審議した「令和7年度第2回事業評価監視委員会」

九州地方整備局の「令和7年度事業評価監視委員会（第2回）」（委員長：三谷泰浩九州大学教授）は1日、福岡市の福岡第二合同庁舎で開かれ、再評価の「道路事業」4件、「港湾事業」1件を審議し、いずれも対応方針（原案）どおり、「事業継続」で了承、再評価の報告案件として「河川事業」1件が報告された。

再評価審議議題の道路事業として「国道3号黒崎バイパス」（福岡県）は、黒崎西ランプ橋下部工の湧水対策や資機材・労務単価増によって、総事業費が前回評価945億円から955億円（10億円増額）となり、約96%の進捗率。「国道201号香春拡幅」（福岡県）は、既設橋台撤去の工法変更や資機材・労務単価増で、総事業費が前回評価101億円から110億円（9億円増額）。進捗率84%。「一般国道10号白浜拡幅」（鹿児島県）は、基礎形式・基礎形状等の変更や地域条件の変更に伴う仮設工法見直し、資機材・労務単価増で、総事業費が前回評価150億円から246億円（96億円増額）となり、進捗率38%。「一般国道497号伊万里松浦道路」（佐賀県・長崎県）は、事業費変更は無く、進捗率64%。

港湾事業の「志布志港新若浜地区国際物流ターミナル整備事業」（鹿児島県）は作業船不足への対応や施工方法の見直し、資機材・労務単価増により総事業費が前回評価733億円から760億円（27億円増額）で、進捗率96%となっている。再評価の報告案件として河川事業の「小丸川直轄河川改修事業」（宮崎県）では、事業を進めるにあたりコスト削減や代替案の可能性を検討すると報告があった。